

あけましておめでとうございます。

皆様のお手元にこの「7本の木通信」が届くころは1月の下旬で、新年の挨拶としては遅いですがお許しください。12月は京阪神でも強い寒気が流れ込んできて大雪でしたが、1月に入っても強い寒気が流れ込み冷え込みます。皆様いかがお過ごしでしょうか。

建築業界は昨年の構造計算書偽装問題が尾を引く年になりそうです。リコール問題などで企業のモラルや透明化が騒がれている時期に、建築業界の一部ではとんでもない事を企んでいる人々がいた事に私は愕然としました。いま建築業界はもとより法曹界、行政などの関係者が問題点を洗い出していますが、誰もが納得のいく抜け道のない素直な解決策を提案してほしいものです。

特集

昨年様々な事件がおこりましたが、改めて見て行くとその原因が似通っている事に驚かされます。昨年の7本の木通信2月号で、違法建築の功罪」と題して確認申請の問題点を提議しましたが、今回の構造計算書偽装事件の問題は形骸化したこの建築確認制度のシステムの盲点を指摘したものと考えられます。

今回の構造偽装事件ですが、マンションとホテルに集中しています。私たちが携わっている個人住宅は、これらの不特定多数者を対象としている建物(マンション)も言い換えれば高層建て売り住宅と言えますと違い、建築主にとって設計から施工まで顔が見えやすい種類の分野だけに、このような事件が起こりにくいとも言えます。

この偽装や捏造事件は牛肉等食品の産地偽装をはじめ社会の多くのシーンで起こっていて、現代社会共通の現象といえます。多くの生産現場がそうであるように、職能の分業化が各々の当事者意識の欠如を生み、多種多様の欠陥問題を生じさせているのは事実です。他者を慮り各職域で知恵を出し合い、いいものをつくろうとする思考と仕組みが必要ということになります。

もう一つ、異常寒波による新潟の大停電も考えさせられる事件でした。そして今回浮上した問題点の一つがインフラのありかたにあります。電力や水道、ガスをはじめ鉄道等公共的なインフラストラクチャーは、あらゆる状況に備え2重3重のセキュリティ対策を考えておく必要があります。

例えば電気の供給については、もしシステムがダウンしても他の地域からの供給により補完するようになってい

ますが、周波数が異なると不可能だそうです。この周波数の違いは、明治時代に導入の発電機が関西圏、60サイクル(米国製と関東圏、50サイクル(ドイツ製))で違っていたのが今に至っているところで、世界でもトップクラスの電化製品を生み出す日本が、この矛盾点をずっと放置してきた事に呆れてしまいます。

そしてこれらの事件でさらに問題を大きくしたのは生活習慣や暖房器具の問題でした。安全性や利便性の名の下に普及した、主要暖房器具であるファンヒーターは通電しないと稼働しない為各家庭は寒さに震えざるをえなかったのです。

私たちが住宅の設計をしていても、雪だるま式に膨らんで行くコンセントに驚く事が多いのですが、電化製品なしでは生活が出来ないように仕組まれているのではないかとつい思ってしまう。利便性を得る為に大切なものを無くし、社会に過剰な負荷をかけているとしたら、私たちの暮らしの中から電化製品を排除してみる試みも必要な事ではないかと思われまます。例えば、信州で開発中のペレットストーブは電気がなくてもうまく稼働できるそうで、停電時でも機能するようです。

最近の住宅は、昔にくらべるといやおうなく高性能になっていきます。しかし暮らし方も道具類もこの環境に上手にシンクロしているとは思えません。例えば暖房器具の一つ、湯たんぽが今見直されているように、私たちの感性に身近なローテクな道具が自由に見直され、それぞれのライフスタイルに感じてどんどん採用されていってもいいのではないかと思えます。自分たちの背丈にあった技術と暮らしには、このような偽装や捏造などとは無縁の世界となるのではないのでしょうか。

(坂田・記)

前回のセミナー報告

地盤の専門家の井上正三氏と構造の専門家の河本弘氏をお招きして、11月26日開催しました。30年以内に予想される南海大地震に対する不安感や、耐震偽装問題で建築工事全てに不信感を持たれている昨今の状況の為か多数の参加を頂きました。

1項目は奈良県下で予想される地震やその被害予想について、又、宅地、建物の被害について、上部構造に起因するもの、地盤に起因するものなどについて、これから建築をす

る時の留意点をわかりやすく講義していただきました。

2項目は木造住宅の地震に耐えるメカニズムについて、Eディフェンスでの木造住宅の振動実験の紹介と共に、映像や動画を交えてやさしく講義していただきました。参加者からは、地盤や基礎、構造などについて熱心な質問があり、時間もオーバーして終了しました。

(松本・記)



「木造の搭の話し」

日本に存在している木造の搭で、過去の地震で倒れたという記録は、一件だけだそうです。あの阪神大震災でも木造の搭をまねして造ったコンクリート造の搭は倒れて、木造の搭は倒れなかった様です。

それでは、何故木造の搭は地震に強いのでしょうか。それは、搭の中心に心柱と呼ばれる太い柱で搭をしっかりと支えているからでしょうか。これは大きな誤解で、心柱で支えているのは、相輪とよばれる、最上部の飾りを支持しているだけです。搭の構造自体はこの心柱に接続されていません。その証拠に心柱が地盤まで伸びていない搭や、日光東照宮五重塔の様に鎖で吊り下げているものもある様です。

地震で倒れないのは、各層が積み上げ式で造られ、また部材間の組手、仕口などがかなり自由度のある結合方式となっているため、地震力を剛で弾き返すのではなく、各層毎にゆらゆらと揺れて、力を分散する柔構造になっているからです。この柔構造の考えが、現在の超高層ビル構造の基本になっています。

多重搭が地震に強い構造だと最初から解って建てたのでしょうか、私はそうではなく、結果的にそうだったのではないかと考えています。



当初仏塔は仏舎利を納める神聖な建物で、相輪の真下に仏舎利が納められていました。相輪と仏舎利をつなぐために立てられたのが心柱であります。時代とともに、仏舎利の奉安は形式化され、仏像の安置が主となり、心柱も最下層まで延ばさず、空間の確保が重要になったのだと思われま。また仏像などの上層部に上がるということは、ありえないことであり、上層部の内部を広く使う事は考えず、複雑な木

組みが可能になり、結果的に地震に倒れにくい柔構造になったのではないかと考えています。

今年の初詣でに、薬師寺にお参りしたのですが、三重塔の美しさにはいつも圧倒されてしまいます。このバランス感覚は日本独自のものですし、相輪の様にほとんど目に見えないところまで、細かな装飾が施されていることには驚くばかりです。

(堀・記)

ニュース

建築業界のニュースが日本全国を震撼させ、テレビ、新聞をにぎわせた年でした。この業界に、永年携わる者としてしましては、大変残念でもあります。全部が悪いニュースではありませんが、年頭に当たり、2005年度の悪いニュースをピックアップして並べてみます。

1番は何といっても構造計算書の偽造建物の事件でしょうか、2番目が、アスベスト健康被害問題、3番目が悪質リフォーム業者の事件、4番目違法ピスの問題で1,000戸が補修騒ぎ事件、そのほかにも色々なことがありましたが、どの件も、行政の対応が、後追いの連続で、何を信じれば良いのかと考えさせられる一年でした。今年はこのような事件が新たに起こらない様に祈っています。又、真面目に建築をされている技術者のほうが圧倒的に多い事を世の中の方に解って貰えるように業界全体が努力することの、元年にしないといけな。詳しいことは住まいの情報発信局 <http://www.sumai-info.jp/> が有りますので、ご参照下さい。

(猪谷・記)

ひとこと

1999年から始めましたセミナーも計61回目となる、昨年11月26日に多くの参加者を得て無事終了しました。早いもので、満7年続ける事ができました。セミナー当日の準備から、セミナー前にはテーマの検討、広報、などを毎回、メンバー全員で行ってきました。メンバーの協力と皆さんの参加があってこそ続けられたと思います。そして、皆さんには、すまいづくりに、少しでも役に立てて頂いたと、自負しております。心より感謝いたします。

今年から1年間は来年に向けて、より充実したセミナーをする為の充電期間とする為、メンバー自身の勉強会を行ないたいと思いますので、定期セミナーはしばらく休止したいと思います。特別セミナーや現場見学会などは不定期に開催する事があるかもしれませんが、その時は皆様にはHPやはがき等で案内を出したいと思いますので、是非又ご参加ください。これからもよろしく願いいたします。

(メンバー同・記)

ネットワーク7本の木 メンバー

【設計者】

坂田泰志	(有)新・すまいシステム	大阪市	06-4800-8686
富本 亨	アトラス(株)建築設計事務所	大阪市	06-6226-0157
松本元子	松本建築事務所	奈良市	0742-70-3848

【施工者】

猪谷勇三	株式会社 猪谷工務店	大阪市	06-6956-4639
堀 勝美	堀 建設 株式会社	豊中市	06-6846-7400

ホームページに活動の案内や報告を掲載していますので、是非ご覧ください <http://www.7trees.net/>